

9. 膠原病・リウマチ内科

膠原病・リウマチ内科部長 内野愛弓

当科では、スタッフ3名・専攻医1名に加え、九州大学からの非常勤医師による外来も併設して診療を行っています。外来診療に関しては、引き続き関節リウマチが最多で約半数を占めるとともに、新規診断患者数も増加しているようです。一方、入院診療では血管炎の増加が目立ちます。いずれも、高齢化を反映した変化と捉えて矛盾なく、同様の傾向は今後も続くものと予想されます。当科診療領域では、新規生物学的製剤や低分子治療薬、免疫抑制剤の上市・承認が続いており、関節リウマチのみならず他疾患においても、治療が大きく様変わりしていくことが期待されます。恩恵を診療に還元していけるよう、診療科一同研鑽に励む所存です。

新患受入れには、今後も最大限努めて参りたく考えておりますものの、御紹介患者数の増加は著しく、2024年も前年を100名ほども上回る御相談を頂戴致しました。筑豊医療圏のリウマチ専門医や診療施設の数、引き続き減少することが判明しておりますので、状況の悪化が見込まれます。この点を踏まえると、2025年以降は、既に飽和している再診外来維持との両立が一層の課題となりそうです。地域の先生方からの日頃の御厚誼に深謝致しますとともに、今後とも変わらぬお力添えを賜りたく、宜しくお願い申し上げます。

患者疾患別内訳（2024年）

外来		
疾患名	総数	新患
関節リウマチ	1176	112
結節性多発性動脈炎	6	0
成人発症スチル病	20	4
リウマチ性多発筋痛症	71	23
全身性エリテマトーデス	157	14
全身性強皮症	114	11
ベーチェット病	32	0
関節炎	20	7
多発性筋炎 / 皮膚筋炎	65	8
ANCA 関連血管炎	72	18
巨細胞性動脈炎	31	4
シェーグレン症候群	242	21
混合性結合組織病	28	2
その他	542	254
総計	2576	478

入院	
疾患名	総数
ANCA 関連血管炎	49
関節リウマチ	27
全身性エリテマトーデス	21
多発性筋炎 / 皮膚筋炎	15
混合性結合組織病	8
巨細胞性動脈炎	7
全身性強皮症	6
リウマチ性多発筋痛症	6
結節性多発性動脈炎	4
成人発症スチル病	4
ベーチェット病	1
シェーグレン症候群	1
脊椎障害	1
その他	48
総計	198